

# 平成24年度 第3回 医療福祉機器研究交流会 【アンケート集約結果】

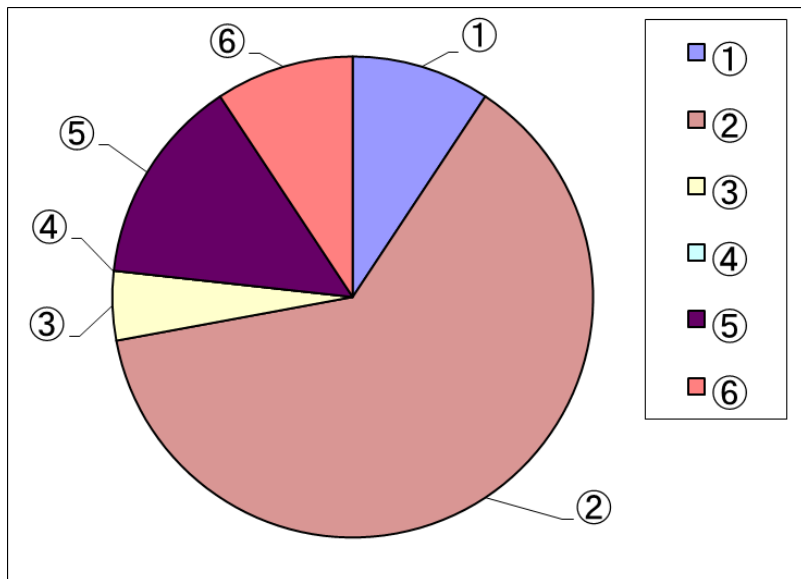
- 日時 平成25年2月1日(金) 13:30~17:00
- 会場 ホテルセンチュリー21広島 2階 「フォルザ」の間
- 主催 総務省中国総合通信局 中国情報通信懇談会 公益財団法人ちゅうごく産業創造センター
- 参加者数/アンケート回収数 75名/43名 (回収率 57.3%)

## 1 開催を何でお知りになりましたか。(複数回答可)

どこから

- ①中国情報通信懇談会 ②公益財団法人ちゅうごく産業創造センター ③中国総合通信局
- ④新聞等 ⑤上司・同僚・知人等 ⑥その他

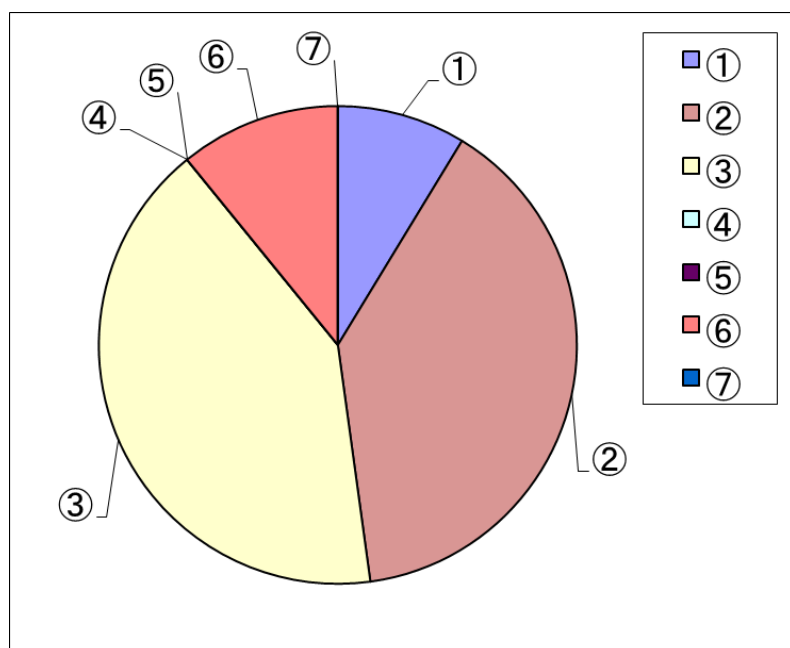
番号	回答数
①	4
②	27
③	2
④	0
⑤	6
⑥	4
計	43



## どのような方法で (複数回答可)

- ①HP ②メールマガジン ③メール ④記事等 ⑤FAX ⑥直接聞いて ⑦その他

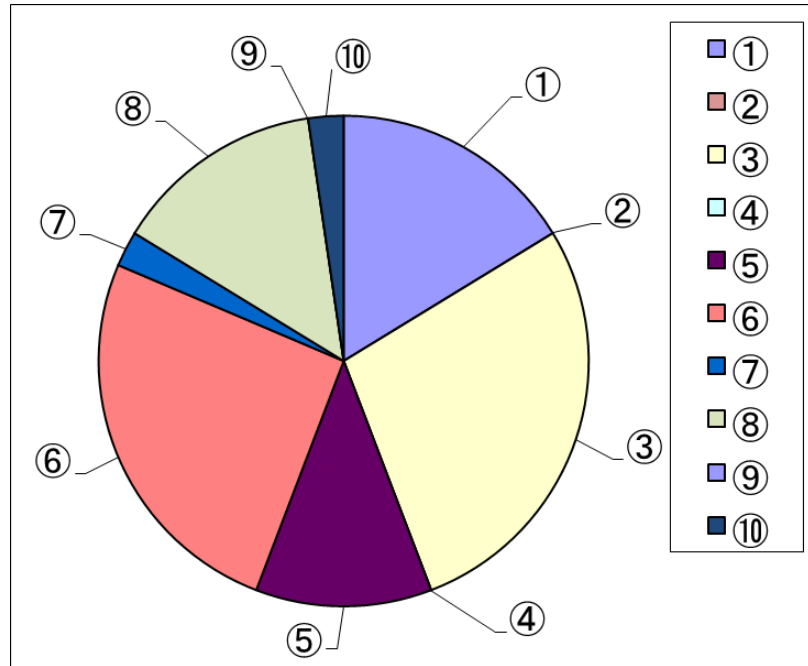
番号	回答数
①	4
②	18
③	19
④	0
⑤	0
⑥	5
⑦	0
計	46



2 貴方が所属する企業・団体の主な分類は次のどれですか。

- ①製造・販売    ②エネルギー    ③情報通信    ④放送    ⑤サービス    ⑥公務  
 ⑦医療    ⑧その他の事業    ⑨個人    ⑩不明

番号	回答数
①	7
②	0
③	12
④	0
⑤	5
⑥	11
⑦	1
⑧	6
⑨	0
⑩	1
計	43



3 本研究交流会の各話題についてご意見・ご感想をお願いします。

基調講演 『医療・ヘルスケア分野にスマートデバイスが果たす役割』

■講師 武蔵野学院大学 国際コミュニケーション学部 准教授 木暮 祐一 氏

大変参考になった	26	興味がわく話だった	28
参考になった	16	興味がわかない話だった	0
あまり参考にならなかった	0	おもしろかった	11
全く参考にならなかった	0	つまらなかった	0

1. わかりやすく、通信と医療の連携技術を知ることができました。ありがとうございます。
2. 最近のホットな話題で、興味のある内容でした。又、製品化はニーズからという言葉が大きなヒントになりそうです。
3. このような内容のシステムがビジネスプランの話を聞きたい。
4. システム化の部分が、日本の弱点であるのは、同感である。
5. 医療装置の進歩により画像などの情報はますます増えている。一方で通信速度も速くなっているものの、今一つ利用という面で追いついて来ない感じがしています。LTE-Advanceに期待しています。
6. ニーズや利用者からの視点について、今後ご指導いただきたいと思います。
7. 個々はほぼ知っている内容であったが、まとめた形で聞いたのは良かった。

## 講演1 『生体電気信号解析技術にもとづく医療福祉機器の開発』

■講師 広島大学 大学院工学研究院 電気電子システム数理部門 教授 辻 敏夫 氏

大変参考になった	17	興味がわく話だった	19
参考になった	22	興味がわかない話だった	1
あまり参考にならなかった	0	おもしろかった	10
全く参考にならなかった	0	つまらなかった	0

1. 制度化に向けての動向が良くわかって参考になった。
2. 生体信号処理には多くのノウハウが必要だということがわかりました。
3. 生体信号関係のセミナーをお聞かせいただき大変ありがとうございます。大変参考になりました。
4. 筋電の応用技術がかなり進んでいることに驚きました。
5. センサーとしての活用としておもしろかった。
6. 人に負担を与えず、情報を取る方法に興味があった。
7. 呼吸・脈の測定データを分析して、アラームを上げるようなシステム開発が出来ているかお聞きしたい。患者さんごとにセンサーを取り付けるところが大変だと感じた。特に病気の進行によって取り付け直すメンテナンスが大きな課題かと思われた。
8. 音楽鑑賞、作曲、TV視聴・・・。趣味の実現、社会活動への参加、自己実現に向けた今後のご活躍を期待します。
9. 生体情報と学習を結びつけたインターフェースであるが、うまく機能を発揮できるようにするためには、使用者の努力が要ると思われる。医工連携の良い例である。

## 講演2 『転倒防止のための患者の体動検知と行動予測システム』

■講師 鳥取大学 大学院工学研究科 情報エレクトロニクス専攻 助教 榎田 大輔 氏

大変参考になった	12	興味がわく話だった	14
参考になった	23	興味がわかない話だった	5
あまり参考にならなかった	4	おもしろかった	11
全く参考にならなかった	0	つまらなかった	0

1. 転倒予防くつ下を使用してのベット廻りの調査ができないのか。
2. デモンストレーションから有用性がよくわかりました。今後もご研究を期待しております。体動検出で正規分布の確率密度関数と角速度信号の積から判定されることをご提案されていますが、積ではなくたたみ込みを使われたらいかがでしょうか（確率密度関数の積演算は物理的意義が不明瞭です 条件付確率にはなりません）
3. カメラ式がプライバシーの関係で使えないと書かれているが、使い方によっては採用できると考えるが。
4. 病院の具体的なニーズを知ることができて良かった。
5. 患者にセンサーを付ける事がいいか、カメラ画像等で認識すればいいか悩ましいところ。転倒した際にケガを防ぐ仕組みも必要と感じた。
6. 「転倒防止」ではなく「転倒した後の早期発見」のように思いました。「転倒防止」の抜本的対策も期待します。
7. 行動検出は目的以外の動作や個人のくせなどがノイズ要因となり難しそうである。データ数が少なく、学生のシミュレーション。

講演3 『音楽と同期する経頭蓋磁気刺激装置の開発』

■講師 広島市立大学 情報科学研究科 システム工学専攻 講師 谷口 和弘 氏

大変参考になった	16	興味がわく話だった	22
参考になった	19	興味がわかない話だった	0
あまり参考にならなかった	3	おもしろかった	18
全く参考にならなかった	0	つまらなかった	0

1. ご研究はもちろん、プレゼンテーションもすばらしいものでした。
2. 私は工業デザイン研究者ですが、“みみスイッチ”は技術的には素晴らしいですが、日頃の慣習動作にいかにしてするかが難しいところだと思います。つまり、メガネなどと比べ、ふだん挿す機会をどう作るか？日常道具としてどうするか。装着違和感はとわれると思います。今は体温計に近い。広島市大ですから、芸術学部のデザインの学生・先生とユーザビリティ含め、開発してみたいと思います。
3. みみスイッチが参考になりました。みみスイッチ（イヤホンと同等）をいつも装着することの抵抗感が気になりました。
4. 大変おもしろかったです。
5. みみスイッチは話をお聞きしたい。
6. 「経頭蓋磁気刺激」は、体験したことが無いためイメージがわかりませんでした。しかし、今後の生活に有効な技術になると思いますので、ご活躍を期待いたします。
7. いろいろ問題のある技術なので、もっと地道にやったほうがよい。

4 これからの電波利用について、関心のあることや期待することをお書きください。

1. 木暮氏の講演のような、新機器、アプリ、AR等による商品開発トレンドをひきつづき期待。
2. ビッグデータ利用に関する法整備。
3. 通信のコストを下げるのが第一ではないかと思う。細くて安い回線という選択肢がない。富士通の新しい通信手段にも興味がある。

5 今後、取り上げて欲しいテーマや講演者等について、ご自由にお書きください。

1. 慶應義塾大学のARなどをやっている稲見先生（透明迷彩アートなど）の話を広島で聞いてみたいです。
2. 病院のニーズが分かる講演を希望します。
3. 医療・福祉分野でのICT利活用に関して、身近な事例について講演していただきたいです。（広島のIT企業の多くが貢献できるようなテーマが理想です）